



妊娠糖尿病の発症と妊娠期の栄養

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安田, 孝子, 大井, 洋子, 中村, 美詠子, 尾島, 俊之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004040

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 2>

妊娠糖尿病の発症と妊娠期の栄養

1 浜松医科大学臨床看護学講座、2 富士市立中央病院、3 浜松医科大学健康社会医学講座

安田 孝子

大井洋子 2、中村美詠子 3、尾島俊之 3

目的：妊娠期の妊娠糖尿病（GDM）発症と食事内容を前向きに調査することであった。方法：静岡県内の A 市において 2014 年 11 月から 2015 年 8 月に属性と食物摂取頻度調査（FFQg）（ver.3.5）、分娩時の状況を調査した。スクリーニングは産婦人科ガイドライン 2014 に沿って実施された。浜松医科大学医の倫理委員会（E14-169）と協力病院（第 96）の承認を受けた。結果：分析対象者は 261 名、その中で GDM 群は 21 名、非 GDM 群は 240 名であった。それぞれ 2 群の年齢は平均 33 歳±5.7、31 歳±5.4、妊娠前の体重は平均 58kg±12、52kg±9.6（ $p=0.004$ ）以下同様、Body Mass Index（BMI）は平均 23±3.8、21±3.6（ $p=0.002$ ）、出生児体重は平均 2839g±463、2994g±444（ $p=0.128$ ）であった。GDM 群と非 GDM 群の 2 群間の平均値の差は、エネルギー 1721kcal、1787kcal、（ $p=0.54$ ）、たんぱく質 63g、62g、脂質 63g、65g、炭水化物 221g、233g、たんぱく質エネルギー比 14.8%、13.9%（ $p=0.039$ ）、脂質エネルギー比 32.5%、32.5%（ $p=0.983$ ）、炭水化物エネルギー比 52.7%、53.7%（ $p=0.491$ ）であった。考察：GDM 群と非 GDM 群を比較すると、妊娠前の体重、BMI、たんぱく質エネルギー比は有意差がみられた。妊娠前の体重と BMI、たんぱく質エネルギー比は GDM 群の方が大きかった。出生児体重は有意差がなかった。結論：妊娠期の GDM のスクリーニングにより食事療法やインスリン治療が行われていることが多いために巨大児の出生はみられず、分娩時の肩甲難産は予防されていると推測される。妊婦の栄養摂取状況は GDM の発症に関わらず同様な傾向がみられる。